

## ◆ 進路実現に向けて

### 情報収集と相談を！

太宰府高校を卒業する時には、ほぼ全員が何らかの進学先や職業を選択することになります。それは、中学生の時に「〇〇高校に行きたい」「〇〇高校を受験しよう」という選択よりもっと大きな選択となるでしょう。その進学先や職業を選択する際には、自分の価値観や興味、性格、希望だけでなく、家族の意見や状況、その時の社会情勢なども大きく影響してきます。あらゆることを十分に考えて欲しいと思います。そのためには、大学や短大、専門学校、そしてその向こう側にある職業についてのより深い知識や理解が必要です。私たちは自分が知っている世界の中からしか生き方を選び取ることができません。進路に関する知識や情報が不足していれば、周囲の人に合わせたり、その時の気持ちでなんとなく進路を選択したりすることになるかもしれません。進路に関して多くの選択肢を持つことができるように、情報をしっかり集めることが必要です。ただ、皆さんの周りには多くの情報があふれています。その情報の中には、真実かどうか不確かなものもたくさんあります。情報を集めながらまずは、周りの大人達に相談することから始めても良いかも知れません。どんなことでも構いません。それが皆さんの進路を切り開いていく何かきっかけになるのではないかと思います。

### 能力は伸ばしていくもの、伸びていくもの

情報収集や周りへの働きかけと同時に皆さんには、自分を伸ばそうという意識を持ち続けて欲しいと思います。今、皆さんは自分の能力をすべて活かしきっていますか。自分の能力はこの程度だと決めつけていませんか。皆さんの本当の能力は、実はまだ秘められたままになっている部分が多いのです。自分の限界を決め付けず、自分の殻を打ち破って、新たな自分を見つけてください。自分探しの第一歩は、部活動や学校行事、日々の授業に積極的に参加することです。それらが皆さんの能力を伸ばしていくことに繋がります。高校生活の一日一日を丁寧に積み重ねてください。

### 自分には何が向いているのか分からなくても・・・

どうしてもやりたいことが見つからない、というケースもよくあります。そのような場合には、「今、高校生である自分がやらなければならないことは何か」をよく考えて、それを実行してください。一見、関係なさそうに見えるものが、思わぬところで社会に繋がっているということもよくあります。高校生活で培った力が、将来の皆さんを助けてくれることもあるでしょう。日々の勉強や部活動、学校行事や委員会活動等に一生懸命、取り組んでいれば、将来の希望職種が明確に決まらなくとも、おのずから自分の進むべき道は拓けてくるものです。また、進んだ先で、ひたむきになすべきことに取り組んでいれば、自分がどのような形で働くことが自分を最も活かすことなのか、次第に見えてきます。その時にはきっと本校の校是である「世の役に立つ人間」になっているはずです。

### 自ら動き出そう！

進路希望が決まらず、焦っている人はいませんか。そのような人は、自分自身の好きなこと、得意なことが何か、思いをめぐらせてみませんか。そして、社会の出来事に興味・関心を持ったり、意欲を持って学習に取り組んだり、自分から動き出せば、状況は必ず変わります。オープンキャンパスなどに参加するのも良いでしょう。進路指導室には各種学校のパンフレットや今までの求人票等があります。是非、見に来てください。

## 就職＝社会人になること

就職希望の人は、進学する人が2年後、4年後に経験することを高校卒業後、すぐに実社会に出て、経験することになります。一度、社会人となれば、これまでのように保護者の方に頼るわけにはいきません。学生とは責任の重さが違います。この点を十分理解して、高校卒業時には「社会人としての自覚」を持てるように努力してください。また、自分の希望する職種だけに絞ろうとすると、受験先さえも見つからないかもしれません。自分に合った理想的な仕事がどこかにあると考え、それを探そうとするのではなく、選んだ仕事に自分を合わせていくという心構えも大切です。このことを肝に銘じ、過去の求人票によく目を通し、インターネット等も利用して企業研究を行い、少なくとも第3志望くらいまでは考えておきましょう。

## 最終的に進路を決めるのはあなた自身

一人一人の人生に正解はありません。進路を選択する際には十分に検討しましょう。どの道に進むとしても最後に決断するのは、あなた自身でなければなりません。そして、その進路を実現できるように精一杯努力してください。進路が実現できたら・・・その進路が自分にとって正解だったと言えるように一日一日を過ごして欲しいと思います。自分自身に真剣に向き合って決めたことなら後悔はないはずです。頑張りましょう。

## 進学について

### (1) 国公立大学

国公立大学へ進学するためには、1月に行われる「大学入試共通テスト」と、2月に行われる「大学個別試験」を受験し、合格しなければなりません。多くの教科科目での受験になるため、2年次までに国・数・英3教科の学習にしっかり取り組み、3年次には早めに理科、地歴・公民の本格的な学習ができるようにすることが大切です。学習への取りかかりが遅くなれば、併願する私立大学の受験にも失敗する可能性が高まります。国公立大学の受験スケジュールはこのしおりに掲載しています。大学入試共通テストの結果を見て各大学が実施する大学個別試験に出願することになります。この大学個別試験はしっかりとした学力をつけておかないと大変難しく、科目も大学・学部によってさまざまですからよく調べておきましょう。また、中には3教科で受験できる国公立大学もあるので、大学入試共通テストの結果次第では、私立大学第一志望の生徒にも国公立大学合格の可能性もあります。

〔大学入試共通テスト〕… 英・国・数・地歴・公民・理科から5教科7科目受験が基本

文系 … 地歴・公民から2科目を選択して受験

理系 … 理科から2科目を選択して受験

### (2) 私立4年制大学

私立大学では、入学者の約半分が一般選抜で受験しています。続いて学校推薦型選抜（指定校推薦・公募制推薦）が約4割で、これもメジャーな入試方式といえるでしょう。それに比べて総合型選抜の割合は約1割と少なめですが、年々この割合が増えてきています。私立大学の一般選抜は、年々多様化が進んでいます。一つの大学・学部であっても複数の入試方式を受験でき、併願が可能となる「複線入試」を導入しているところがほとんどです。「A日程」「B日程」などと日程を分けて実施する場合や、受験教科が複数パターンある入試など、その内容もさまざまです。

しかしきちんと理解すれば、得意分野を生かして受験したり、同じ学部学科を複数回受けられたりと多くのメリットがあります。学校推薦型選抜で合格が決まっても、大学入試共通テストまでは一般選抜の受験生のつもりで勉強してほしいものです。学校推薦型選抜は早期に合格が決まるため、その後の勉強を怠ると進学後の授業についていけず、補講を受講したり、単位を落としてしまうこともあります。

[文系一般選抜] …国・英・地歴（日本史・世界史・地理から一科目選択）の3教科型が多い。

[理系一般選抜] …数・英・理科（物理・化学・生物から一科目選択）の3教科型が多い。

※学校推薦型選抜は、受験機会が増えるという程度に考えて、一般選抜に向けた準備を怠らないこと。学校推薦型選抜の合格発表は11月から12月上旬に行われるため、学校推薦型選抜で不合格となった場合、それから一般選抜の勉強に取りかかっていたのでは、合格はおぼつかない。

### （3）短期大学

全国的に受験者数は減少傾向にありますが、食物栄養科や幼児教育科の人気は根強く、この2学科（特に中村学園大学短期大学部）に合格するには4年制大学レベルの学力が必要です。短期大学は学校推薦型選抜でかなりの合格者を出すため、短期大学を第一志望とする人は、学校推薦型選抜からの受験を考えて、早めに準備に取りかかる必要があります。近年、閉鎖する短期大学も増えていますので、きちんと受験年度に存在することを確認してください。

[学校推薦型選抜] …11月に実施し、11月下旬～12月上旬に合格発表をするところが多い。

[一般選抜] …文系は国語・英語の2教科型が多い。

### （4）看護・医療系専門学校

入試は国語・英語・数学・理科の4教科型が多いのですが、学校によっては2教科あるいは3教科で受験できる場所もあります。ただし、科目を絞りすぎると、併願できなくなるので危険です。また、看護師希望者で4年制大学の看護学部を受験する生徒が増えており、大学と専門学校のどちらを選ぶか十分に検討してください。大学の看護学部（看護学科）は難易度も高く、合格は容易ではありません。

[学校推薦型選抜] …11月に実施し、11月下旬～12月上旬に合格発表をするところが多い。

[一般選抜] …12月～2月上旬に入試を実施するところが多い。

### （5）その他の専門学校

進学先の候補となる学校のオープンキャンパスに複数回参加し、じっくり検討した上で、担任の先生や保護者と十分相談して決定してください。専門学校の場合、その後の就職先も限定されますから、単に興味があるからという理由で選択することがないようにしましょう。ある専門学校の先生が話しておられましたが、最低でも1日1時間は学習する習慣が身に付いていないと社会に出て役に立つ資格は取れないそうです。進学が決まってからもきちんと学習に取り組んでください。

入学試験を課す学校と面接試験のみの学校があるので、募集要項等で確認してください。出願に当たっては、学力が高ければ、特待生制度や奨学金制度を活用できる場合もあるので保護者の経済的負担軽減のためにも基礎学力を充実させておきましょう。

専門学校から就職試験を受けるとき、出身高校の調査書の提出を求められることがあるので、遅刻・欠席・早退をせず、学業成績を上げておくことも大切です。

## 就職について

### (1) 民間企業への就職

高校を卒業して就職する生徒に企業が求める能力は、まず読み・書き・計算の能力、次に勤労意欲と適性、そしてコミュニケーション能力です。高校時代に基礎学力をしっかりと身に付けておきましょう。7月には今年度の求人票が来ます。このしおりの「求人票のチェックポイント」をよく読んで、インターネットも活用し、しっかりと企業研究してください。9月5日が出願開始で、9月16日が就職解禁。就職は学校推薦の形を取りますので、合格したら必ずその会社に就職することになります。10月末までは同時に2社に出願することはできません。つまり不合格通知が来てからしか次の会社に出願できないということになります。11月からは同時に2社出願することが可能ですが、そのころになると希望する出願先を見つけるのは相当困難になります。

### (2) 公務員

公務員合格への道は非常に厳しいです。幅広い知識と短時間で要領よく物事を処理する能力が求められます。3年生になってから対策の学習をしては絶対に間に合いません。2年の2学期までには自分で問題集を購入し、家庭で継続して取り組むなど早めに取りかかることが必要です。問題集は、科目別になっているものを選びましょう。特に「政治経済」、「判断推理・数的推理」、「文章理解」、「適性試験」などは普通科の高校であまり学習する分野ではありませんが、公務員の試験ではよく出題されるので特に力を入れて学習することが必要です。また、高校で履修した科目では確実に得点できるように、日頃の授業を大切にしましょう。進路指導室前の掲示板にも公務員試験の日程が掲示してありますから、よく確認して、受験申込み忘れなどないようにしてください。公務員受験の山場は9・10月です。

## 社会人としての基礎力を身につけよう

大学・短大・専門学校に進学する人も最終的には就職します。最近の統計を見ると、就職後3年以内に仕事を辞めてしまう人が中卒で7割、高卒で5割、大学卒で3割と言われますが、その理由の1つとして、「真剣に自分の人生設計をしていない」ことが考えられます。このことは、就職することだけにとらわれて、自分がどんな風に生きていくのか、などその後の生活までよく考えずに就職している若者が多い、ということでもあると思います。当然のことですが「就職を決めることがゴールではなく、就職した先でいかにして自分を活かすか、社会の役に立つかを模索し続けることが大切」なのです。その「志」がなければ、就職はしたものの、仕事が面白くない、上司が嫌だ、そもそもやりたい仕事ではなかったなどと口実を見つけ、早期に会社を辞めてしまうことにもなりかねません。

そうならないために、未永い自分の人生についてよく考え、後悔しない人生を設計してほしいと思います。よくも悪くも、高校3年間でどれ程真剣に考え、取り組んだかでみんなの人生は変わるはずです。なんとなく生活するのではなく、自分の人生を考えながら高校生活を送りましょう。